

令和 6 年 7 月 30 日

浅茂川温泉静の里・浅茂川温泉プールの あり方・利活用についての提言（中間まとめ）

京丹後市観光立市推進会議検討部会
会長 坂上 英彦

京丹後市観光立市推進会議検討部会としてまとめた浅茂川温泉静の里・浅茂川温泉プール(以下当該施設と表記)及び施設周辺のあるべき方向性を提言します。当該施設の今後のあり方を検討する上で参考にさせていただけると幸いです。

1. 提言の背景

京丹後市では、老朽化の著しい当該施設について、令和3年度に「調査及び改修方針等検討業務」を実施し、その結果を踏まえた今後のあり方について、検討が進められてきました。その上で、令和5年第5回京丹後市議会12月定例会において、令和5年度末で終了する当該施設の指定管理者の指定の期間を令和7年度末まで変更(2年延長)する議案を上程されましたが、令和6年度末までの期間変更(1年延長)とする修正可決がなされ、令和6年度末をもって指定管理による当該施設の運営が終了されることとなりました。

このような中、市では、原状復帰の工事費が多額となることや、市内に7つの外湯温泉があることなどから、行政による現状規模の当該施設の継続・維持は困難であり、「規模縮小」「用途変更」「廃止」等のあらゆる方向性について再検討を進めるため、令和6年2月に、本推進会議に対し、当該施設の今後のあり方・利活用についての検討依頼がありました。これを受けて本推進会議では、第4次京丹後市観光振興計画との整合性と整備が進められている山陰近畿自動車道や浅茂川漁港等の周辺施設との有機的な連携を念頭に置きながら、当該施設の現状や改修等経費の見込、利用状況、利用客等の意見などを踏まえ、また、浅茂川漁港等の周辺施設との一体的な活用も視野に入れ、様々な角度から検討を重ねてまいりました。

2. 検討の視点

以下の視点から検討を進めました。

- ・ 当該施設の老朽化の状況、維持・更新に係る経費
- ・ 当該施設の利用状況
- ・ 当該施設の観光活用、利用者ニーズ
- ・ 周辺エリアの状況・課題、施設の一体的な活用

3. 当該施設の今後のあり方

当該施設の今後のあり方としては、老朽化の進行と現在の観光ニーズ、また施設の状況を考慮すると、改修、修繕を行ってまで「観光施設として継続する必要はない」という意見

でまとめ、令和6年度末の指定管理期間の終了をもって当該施設を閉館し、新たな活用方策を検討すべきとの結論に至りました。

4. 当該施設の活用の基本的な構想(コンセプト)

(仮称)静の里再生構想「(仮)京丹後まるごと海の観光拠点」

山陰近畿自動車道の(仮)網野 IC の将来計画を見据え、老朽化した温泉施設「浅茂川温泉静の里」を再生して、京丹後の海の魅力をまるごと味わうことができる観光拠点を整備する。

当該施設は撤去して、眼下に海を望む高台にあり、浅茂川漁港と一体的な立地を活用した誘客を図る観光拠点として再生、活用すべきという意見でまとめました。

具体的には、観光客の立ち寄りができ、地域住民も家族等で利用できるものとし、温泉を活かした足湯、ロケーションを活かしたフォトスポットや、地元の実産物、農産物、お土産物などが購入でき、海を見下ろすレストランや BBQ 施設などが望まれ、ジオパーク、長寿をキーワードに含めた整備も期待されます。

浅茂川漁港の観光活用としては、将来の山陰近畿自動車道(仮)網野 IC との連携による集客力を高めることを視野に置き、海産物の直売所や釣り、漁業体験などの海のアクティビティ、大型観光バスが入ることができる駐車場整備などの具体例が議論されました。

5. 具体的な整備の方向性(案)

当該施設と浅茂川漁港の一体的な活用、周辺の実施設との連携、また、具体的な整備は、公共だけでなく民間の活力を最大限に活かす方が望ましいといった意見を踏まえ、次のように集約しました。

第1ステップ『基盤事業構想(公共事業)』 完成目標年度:2027年度

まず施設の解体を行い、観光基盤的な公共事業に取り組みます。市民と観光客が共に楽しめる施設を整備し、フォトジェニックな京丹後市の魅力を発信します。温泉の泉源を利用し、足湯を整備するなど、無料で利用できる施設とします。第2ステップの民間事業者が取り組む機運を高め、その用地は当面芝生広場として整備します。

第2ステップ『観光拠点事業構想(民間活力を活かした事業)』

食と癒しをテーマに民間事業者を募集し、観光拠点事業に取り組みます。食に関係する地元業者、移住者等からなるグルメタウンの形成や海鮮 BBQ、カキ小屋など食や長寿をテーマにした観光拠点を目指します。さらに食に対する体験コンテンツなども充実させることで、集客を目指します。特に食に関しては、地産地消ということにスポットを当てた取り組みが重要になります。また、BBQ 施設を設置した場合、砂浜などで BBQ を行っている観光客

等へ当施設への誘導も必要です。

第3ステップ 『(仮)海の駅事業構想』

山陰近畿自動車道の(仮)網野 IC の完成までを目標に、浅茂川漁港を活用して、団体観光客にも対応できる「海の駅」を整備します。漁業関係者が中心となり、フードコートのある海産物、農産物の地元産品のラインアップを充実した市場と駐車場を整備し、海の体験など山陰海岸ユネスコ世界ジオパークを活用した観光事業にも取り組みます。なお、漁業者との合意形成のもと本来の漁港利用・機能を向上させる整備に留意が必要です。

6. 防災の観点

現行施設は高台に位置し、津波時の指定緊急避難場所に設定されており、今後、当該地点を整備する際には、周辺防災施設との連携のもと、これまで以上に防災の観点を重視し、施設の整備を行うことが大切になります。

7. 付帯の検討事項

旧網野庁舎跡地への地域の拠点施設(「(仮称)網野交流センター・交流広場」)の整備予定や、山陰近畿自動車道の網野町域への延伸計画、「アミティ丹後」などの既存施設との連携を視野に、網野エリア全体として、活性化につながるよう一体的な議論を進めることが大切です。

8. その他、検討に当たり考慮した事項

考慮した事項	検討の内容、対応の方向性
現スイミングスクール機能	民間事業者が市内で運営しており、こちらに誘導を期待する。
小学校プール施設の老朽化の代替の可能性	当該施設は観光拠点に特化するため、義務教育施設の整備は不向きで、別の用地等で対応するのが望ましい。
道の駅との競合	市内の3つの道の駅(丹後王国「食のみやこ」、「てんきてんき丹後」、「くみはま SANKAIKAN」)との機能分担による競合を回避し、海産物に特化した施設にする。
「アミティ丹後」との競合	「アミティ丹後」は伝統工芸、丹後ちりめんなどの幅広い物販で、やや地元利用が中心であるとのことであり、観光客をターゲットに、海産物に特化した物販を目指すことで競合を避ける。 場合によっては、生鮮食品、海産物等の食にかかわる部分の当該施設への集約を検討する。
旧網野庁舎跡地の再生	地域拠点施設整備計画との調整については、拠点施設の具体的な方向性が定まっていないため、現時点で調整は困難だが、

	今後、施設の方向性が見えてくる中で一体的な議論が必要である。
山陰近畿自動車道 (仮)網野ICとの連携	山陰近畿自動車道ICの設置箇所については、現在検討が進められているが、府道浅茂川下岡線を利用すれば比較的円滑にアプローチできると想定される。ICから10分程度の範囲であり、距離の問題はない。

9. 検討の経過

日時	会議及び検討事項、取組内容等
令和6年2月14日	先進地視察(神奈川県三浦市)
令和6年2月22日	令和5年度第1回京丹後市観光立市推進会議 ・浅茂川温泉静の里の現状の説明。検討部会の設置を決定。 ・3班に分かれ、グループディスカッションを行い、施設のあり方や活用方法について、それぞれ討論を実施。
令和6年3月26日	令和5年度第2回京丹後市観光立市推進会議 ・前回のグループディスカッションの意見報告・意見交換。 ・新たな休憩施設等に関するニーズ調査(観光事業者向け)(観光者向け)の報告。 ・先進地視察の報告。 ・グループディスカッションの結果を受け、検討部会の臨時検討委員の決定。
	令和5年度第1回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・施設のあり方や施設に必要な機能などを議論。 ・地元区長会等での説明についての報告。
令和6年4月末～	浅茂川温泉静の里利用者ヒアリング調査実施。 (ヒアリング実績:52名)
令和6年5月13日	令和6年度第1回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・ヒアリング調査の結果の報告。 ・検討部会での視察先の検討、決定。 ・提言(中間まとめ)案の検討。
令和6年5月24日	先進地視察(兵庫県たつの市、岡山県備前市)
令和6年6月 3日	先進地視察(福井県三方郡美浜町)
令和6年6月20日	令和6年度第2回京丹後市観光立市推進会議 検討部会 ・先進地視察の報告。 ・提言書(中間まとめ)の検討。